

## 提案書概要(その1)

提案者：特定非営利活動法人NPO子どもネットワークセンター天気村

テーマ：「鉄人たちとともに滋賀の環境学習を変える」

### (現状と課題認識)

県内ではさまざまな環境学習の取り組みが行われているが、特に行政主催事業は縦割りで実施しており、効率性や効果性に疑問が残る場合が多い。学習者はどれを選択すればいいのか、また実施を依頼されるNPOは限られており、対応の限界にもある。

地域で環境学習をいきいきと進めるためには、環境学習支援センターと関係拠点やプログラム、人材など、県内にある様々な「素材」とが重層的な関係を築くことが重要であり、枠を超えた相互協力が喫緊の課題である。

### (解決の効果)

部活が(料理になぞらえるなら)県内の環境の鉄人たち(NPOや個人)とともに滋賀にある素材や材料を厳選した「新環境学習レシピ集」の作成する中で、現在の行政内の重複した縦割り事業を個々に検証しながら、組織体制に縛られない事業の整理統合を行い、経費の節減、事務の合理化に結びつけ、環境学習という公共サービスの質的向上を図る。

これにより、住民やNPOからは行政の事業が明確に見えるようになり、本当に自分たちのミッションに合った事業を、意欲のある行政職員や他のNPOの人たちと協働で実施することにより、いきいきとした活動につながっていく。

これは、環境学習を入り口にした「新しい滋賀の地域協働モデル」づくりに他ならず、真に自律、自立した地域づくりにつながっていく。

### (協働の必要性和乗効果)

県庁内に存在する「庁内連絡会議」は政策調整を目指しているものの、お付き合い的に参加している感覚が強く、主催課以外の当事者意識を高めることが大変難しく、形骸化しがちである。

これを本来の場とするためには、意欲のある職員による「内からの風」と、NPOをはじめとする「外からの風」とが必要であり、鉄人たちの叱咤激励(企画提案)を受けながら、職員たち自らが縦割りを超えて、本来の目的(ここでは滋賀の環境学習が地域で自律的に生き活きと進められるためのしくみをつくる)を達成するよう議論を深め、政策化

しなければならない。

この庁議改革は、他分野にまたがる政策統合、予算削減だけでなく、職員の意識改革に大きく寄与し、縦割り打破や多分野の施策をつなぐヒントとなり、所属の縛りから解放された施策が多く事業化されると考えられる。

### (役割分担)

県は、環境学習支援センターや庁内連絡会議との相互協力関係を持ちながら、生じている縦割り行政の課題を認識し、鉄人たちとともに自ら目的達成のための政策統合を行う。

NPOは、鉄人的英知と実績で行政職員に刺激を与えると同時に、滋賀の情報と人材、ノウハウ、ネットワークを駆使し、レシピ提案を行う。後にはレシピの営業マンとしても期待できる。

### (取り組み構想等)

#### ホップ

環境学習を進めるために県事業、地域の活動、様々な情報を「知る」(素材探し)

#### ステップ

その情報に立脚し、行政の縦割りを楽々と超えつなぐ仕組みを考え、地域でケーススタディを実施(環境学習のレシピづくり)

#### ジャンプ

横断的ではあるが期間限定の部活プロジェクトを一過性ではない、持続する仕組みを構築(環境学習のレストラン準備)

今回、提案するレシピは完成品ではなく、常に見直しされるよう、将来的に本部活の進化型チームが機能することを期待する。

日々営む生活やコミュニティに縦割りはなく、行政職員も家に帰れば一人の住民である。一人ひとりが自立し、みんながつながりあえる公共サービスを協働で創造する時代が来たといえるのではないか。

### NPO子どもネットワークセンター天気村

所在地：草津市 設立：1999年  
主な活動：こんぺいとう自然保育園運営  
国際交流キャンプ開催  
地域子ども活動実施 等

## 提案書概要(その2)

提案者：びわたん(県立琵琶湖博物館 はしかけグループ)

テーマ：「しがしみん環境学習推進ネットプロジェクト」

### (現状と課題認識)

琵琶湖博物館において市民参加交流型の活動支援としての「はしかけ制度」開始当初から活動しているびわたんは、体験学習プログラムを開発実施するとともに、他施設と協働で事業を実施することも多くなってきた。

しかしながら、全県的に見ると施設外のNPOと協働する仕組みが組織だって構築されていないため、協働連携から生まれるダイナミックな環境学習の機会が単発に終わってしまっている。

### (解決の効果)

湖辺に並ぶ環境学習施設を横断的につなげ、継続した環境学習の推進を図るとともに、体系的につながったネットワークを機能させることにより、NPO、学習者にとって効率的、効果的な学習機会の提供になる。

例えば、水環境科学館と琵琶湖博物館をセットにした環境学習プログラムを修学旅行の誘致に積極的に活用できる。

### (協働の必要性和相乗効果)

NPO

これまで単発に終わっていたものを、環境学習施設同士が協働、連携することで、取り組み情報や人的な交流が可能となる。それは自己満足に陥りがちな環境学習のレベルアップや実践力アップにつながる。

県行政

NPOが活動しやすい環境づくりを推進することで、これまでの行政主導型の事業実施ではない、今後のNPO活動支援のあり方が見えてくる。県環境学習推進条例に基づき進めている事業計画への関わりも模索できる。

### (役割分担)

NPO

- ・環境学習推進施設を横断的につないだプログラムの開発と実施
- ・環境学習に関する勉強会、交流会など連携活動の推進
- ・情報や場の共有化を目指した有機的ネット

ワークづくりとその運用

県行政

NPOの目指す活動の支援、環境づくり(関係部局との連携・調整の働きかけ、キーパーソンの人選、専門的分野の学習づくり等)

### (取り組み構想等)

大津・湖南地域にある環境学習推進施設(県環境学習支援センター、水環境科学館、ウォーターステーション琵琶、ILEC、琵琶湖博物館)が双方向のネットワークを構築して、それぞれの得意分野を活かし、地域素材再発見につながる環境学習プログラムを開発実施し、協働連携によるダイナミックな環境学習を行う。

これらの取り組みが、環境問題に自ら気づき行動する県民の育成につながり、県条例の基本理念に謳う「環境学習は、すべての県民によって主体的に取り組まれる」姿を実現させる。

環境先進県としての滋賀県から、新たな協働の取り組みを発信していくことは、先進的な事例として、各都道府県における環境学習促進の一助ともなることを期待する。

### びわたん

所在地：草津市 設立：2000年  
主な活動：琵琶湖博物館「体験学習の日」プログラム企画運営  
各施設、NPO、公民館、学校等との協働による体験学習の実施等